

< 実践事例 小金井市立緑小学校 >

1. 取組・活動名

「日本人としての自覚と誇りの育成」

2. 取組・活動のねらい

- 日本の伝統・文化に直接触れる機会を多くもち、その良さを感じ、大切にしていこうとする意識を育てるとともに、豊かな国際感覚を育むことでオリンピック・パラリンピックに向けての意識を高める。
- 日本の伝統・文化を体験することで、多様な視点から日本人らしさを考えることができ、日本人のマナーに誇りを感じ、実践していこうとする意識を育てる。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・音楽・生活科等・各学年5時間程度」

4. 実施上の工夫

- ・オリンピック・パラリンピック教育推進担当を校務分掌に位置付け、各学年と連携し計画的に日本の伝統・文化の専門家をゲストティーチャーとして招くことができたようにした。
- ・年間指導計画に基づき、日本の伝統・文化を学ぶ取組を全学年で系統的に行うことで6年間を通じて学びが深まるようにした。
- ・体験をするだけでなく、体験したことを外国人に伝える活動も行い、日本について自分の言葉で話すことを目指した。

5. 本取組・活動の内容



「落語教室」

- ・落語家の方をゲストティーチャーに招き、落語を実際に見せていただいた。
- ・落語では、声色を変えて、1人6役位演じることや、扇子や手ぬぐいを道具に見立てることを知ることができた。
- ・実際に蕎麦をすする仕草の練習をしたり、和太鼓を効果音として叩いたりする体験を通して、表現する面白さを楽しむことができた。



「お箏教室」

- ・山田流の方をゲストティーチャーに招き、お箏の演奏を聴いたり、実際に「さくらさくら」を演奏したりした。
- ・お箏の演奏を教わる中で、お箏の独特な音階の読み方を知ったり、日本らしい音の響きを味わったりすることができた。



「能楽講座」

- ・社会の歴史の学習や国語の狂言の学習を生かして、狂言について調べ、その良さを留学生に紹介した。
- ・その後、観世流能楽師の方をゲストティーチャーに招き、能楽についても学習した。能面を付けて歩いたり、小鼓を打ったりする体験を通して、歴史ある古典芸能の世界に触れ、その良さを実感できた。

6. 成果

- ・上記の取組以外にも、小金井市の伝統・文化である貫井囃子、現代俳句協会による俳句教室等の体験活動を含め、全学年において「日本人としての自覚と誇り」を高めるための実践を行った。どの活動においても、「楽しかった」「また体験したい」という児童の意見が多く、日本の伝統・文化を身近に感じさせることができた。
- ・体験的に学ぶことにより、日本の良さに気づき、伝統・文化を大切にしていこうという意識が高まった。また、日本人のおもてなしの心が海外でも評価されていることを知り、日本人のマナーに誇りを感じ、実践していこうとする意識が高まった。
- ・多くのゲストティーチャーを招き、交流することで、実感をもって学ばせることができた。また、ゲストティーチャーとのつながりも増え、来年度以降も継続して実践を行えるようになった。